

2021年度東京藝術大学音楽学部

入学試験問題

出題意図等

作曲科（ピアノ新曲）

- ・「出題意図等」とは、出題意図あるいは標準的な解答例のことです。
- ・「出題意図等」についての問い合わせには対応いたしません。

ピアノ新曲 【出題意図】

ピアノを使った初見を課すことで、受験者の読譜力を判断する。楽譜上の記載事項、すなわち音高やリズム、速度や発想標語、強弱、アーティキュレーション等々をどれだけ正確に読み演奏にそれが反映されているかを見ると同時に、楽譜上には直接記載されてはいないが、演奏のために楽譜から読み取ることが不可欠であるような事象、例えば楽曲の様式、和声や対位法、楽曲の構成、フレーズ等々がどれだけ理解されているかをも見る。

またピアノで弾くことを考慮すると、古典音楽における標準の「指使い」についての最小限の知識が求められる。以上をふまえて、今回の新曲について細かい注意事項を下に記す。

ともかく和声をどれだけ読めるかにかかっている。例えば、8分音符や16分音符の動きに惑わされて1音1音を見てゆく方法では、この曲の意図するところを演奏することは困難である。とくに9小節～15小節の16分音符の動きのある部分では、基本的に付点4分音符単位で音を読み、その和声がどのような音で構成されているかを読み取ることが肝要である。その際、音はバスからソプラノに向かって上に読んでゆくこと。

更にそれらの音色的ニュアンスを感じ取ることも大切である。例えば16小節と17小節では、ドミナント系の和音の響きの違いを意識するように指示（強弱の違いやテンポの変化）されている。そして18小節のA tempo のBdurのトニックは明るいイメージに感じて欲しいと思う。